

プログラミング言語実験

第3回

コンピュータ大貧民

— クライアントの基本機能の実装（カードの提出） —

2019 年 04 月 22 日、23 日

1 カードの提出

1.1 配列とカードの表現

UECda において、場に出ているカードや手持ちのカードは、 8×15 の配列として与えられます。概要を表 1 に示します。0 行目～4 行目でカードを表現し、5 行目～7 行目で革命中等の場の状態を表現します。詳細は UECda のマニュアル

（<http://www.tnlab.inf.uec.ac.jp/daihinmin/2018/document.html>）を見てください。

UECda におけるクライアントプログラムを作成するには、“配列を読み取り、どのカードを出すかを決定し、やはり配列に値をセットして送り返す”プログラムを書くということになります。

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
0		スペード、左から 3,4,5,...,Q,K,A,2													
1		ハート													
2		ダイヤ													
3		クローバー													
4															
5															
6															
7															

表 1: コンピュータ大貧民におけるカード表現

配列中、表中で持っているカードには 1 が、持っていないカードには 0 が入ります。ジョーカーの場合には、特別に 2 が入ります。4 行目、0 列目、14 列目は、ジョーカーを使った特殊な手（5 カードや A, 2, ジョーカーの階段等）を表現するのに使われます。

次に、いくつかの例を示します。この例では、0 が入っている部分は空白にしてあります。また、5 行目以降は省略してあります。

- 手持ちのカードがダイヤの 3, 4、ハートの 9 と 11 の場合：

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
0															
1								1		1					
2		1	1												
3															
4															

- 手持ちのカードがダイヤの 3, 4、ハートの 9 と 11 とジョーカーの場合：

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
0															
1								1		1					
2		1	1												
3															
4		2													

自分の手持ちのカードとしてジョーカーがある場合は、配列の [4, 1] に 2 が入ります。

- 場のカードがクローバーの 4, 5, 6 の場合：

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
0															
1															
2															
3			1	1	1										
4															

- 場のカードがクローバーの 4, 5, 6 で、ジョーカーがクローバーの 6 として代用された場合：

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
0															
1															
2															
3			1	1	2										
4															

ジョーカーが代用された場合は、代用の対象となったカードの部分に 2 が入ります。

- 場のカードが 7 の 5 カードの場合：

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
0						1									
1						1									
2						1									
3						1									
4						2									

5 カードや、A, 2, ジョーカーの階段を表現する場合、4 行目や 0 列目、14 列目が使用されます。

1.2 提出するカードを選択する関数 `select_submit_cards`

自分がカードを提出する番が回ってきたとき、関数 `select_submit_cards` が呼ばれます。この関数は `select_cards.c` に書かれています。プロトタイプ宣言は次の通りです。

Listing 1: 関数 `select_submit_cards` のプロトタイプ宣言

```
1 void select_submit_cards(int out_cards[8][15], int my_cards[8][15],  
2                          state *field_status);
```

それぞれの引数は、次のような役割です。

- `int out_cards[8][15]` :
提出する手を格納する配列です。
- `int my_cards[8][15]` :
自分のカードが格納されている配列です。
- `state *field_status` :
場の情報が格納されている構造体です。メンバ `cards` が場に出ているカードの配列です。他の情報も格納されています。詳しくは `common.h` をご覧ください。

結局のところ、この講義での「クライアントが提出するカードを選択する」とは、「`my_cards[8][15]` と `*field_status` の情報を元に提出するカードを選択し、結果を `out_cards` に格納する」ことを意味します。

初期状態での `select_submit_cards` は、次のようなものです。

Listing 2: 関数 `select_submit_cards`

```
1 void select_submit_cards(int out_cards[8][15], int my_cards[8][15],  
2                          state *field_status)  
3 {  
4     int select_cards[8][15];  
5  
6     clear_table(select_cards);  
7  
8     if(field_status->is_rev==0){  
9         // 革命中ではない  
10        if(field_status->is_no_card==1){  
11            // 場にカードが無いとき  
12            select_cards_free(select_cards, my_cards, field_status);  
13        } else {  
14            // 場にカードが有るとき
```

```

15     select_cards_restrict(select_cards, my_cards, field_status);
16 }
17 }else{
18     // 革命中
19     if(field_status->is_no_card==1){
20         // 場にカードが無いとき
21         select_cards_free_rev(select_cards, my_cards, field_status);
22     }else{
23         // 場にカードが有るとき
24         select_cards_restrict_rev(select_cards, my_cards, field_status);
25     }
26 }
27 copy_table(out_cards, select_cards);
28 }

```

革命中であるか否かで場合分けを行い、その後、場にカードがあるか否かで場合分けを行っています。select_cards_free は自分の手持ちのカードの中で一番弱いカードを単騎で提出し、また、select_cards_restrict は場が単騎の時に自分の手持ちのカードのうちで一番弱いカードを単騎で提出します。select_cards_free_rev と select_cards_restrict_rev は、初期の状態ではパスをします。フローチャートとして書くと、図 1 のようになります。

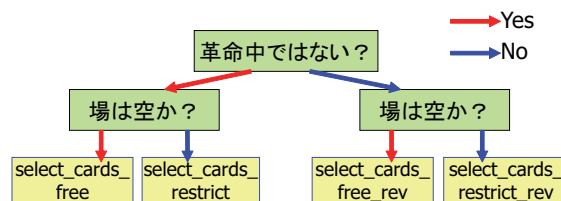


図 1: select_submit_cards のフローチャート

select_cards_restrict のフローチャートを図 2 に示します。この関数のプロトタイプ宣言は以下の通りです。

Listing 3: 関数 select_cards_restrict のプロトタイプ宣言

```

1 void select_cards_restrict(int select_cards[8][15], int my_cards[8][15],
2                             state *field_status);

```

この関数は、自分の手札情報の配列 my_cards と場の情報 field_status から、場が単騎の場合のみ、出せるカードのうちで一番弱いカードの情報を配列 select_cards に乗せます（つまり、どこか一カ所だけに 1 が入り、あとはすべて 0 となります）。場が縛られているときには、

1. 場のスート以外のカードを、関数 remove_suit を用いて、手札情報から削除
2. 場のカードよりも弱いカードを、関数 remove_low_card を用いて、手札情報から削除
3. 残ったカードの内、一番弱いカードを 1 枚、関数 search_low_card を用いて探す

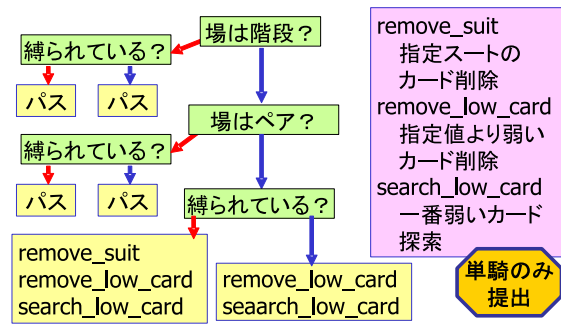


図 2: select_cards_restrict のフローチャート

ことでカード選択を行っています。